

子宮頸がんワクチン（対象年齢：小学6年生～高校1年生） （標準：中学1年生）

平成25年4月から定期接種化されました。しかし、一部の接種者において接種後に関連が疑われるとされる症状が報告されたため、定期接種として継続されたものの、積極的な勧奨は差し控えられてきました。その後、専門家の会議において継続的な議論がなされ、安全性について特段の懸念が認められないことが確認され、接種による有効性が副反応のリスクを明らかに上回ると認められたことから、令和3年11月26日をもって、積極的な勧奨の差し控え状態は終了することとなりました。

また、令和4年4月1日から令和7年3月31日までの3年間、積極的な勧奨の差し控えにより接種機会を逃した方たち（平成9年4月2日～平成20年4月1日生まれ）を対象として、接種機会が設けられることとなりました。（キャッチアップ接種）

病気の説明

子宮頸がんは発がん性ヒトパピローマウイルス（HPV）というウイルスの持続的な感染が原因となって発症します。性交経験がある女性であれば誰でも感染する可能性があります。HPVに感染しても、ほとんどの場合ウイルスは自然に排除されますが、ウイルスが排除されずに長期間続く場合に、ごく一部のケースで数年～十数年かけて前がん病変の状態を経て子宮がんを発症します。

ワクチンでHPV感染を防ぐとともに、子宮頸がん検診によって前がん病変を早期に発見することで子宮頸がんが予防できます。

接種時期と回数

小学6年生～高校1年生の女子に接種します。
（標準接種対象者は中学1年生）

※積極的な勧奨の差し控えにより接種機会を逃していた平成9年度から平成19年度生まれまでの女性は、令和4年4月から令和7年3月までの間、キャッチアップ接種を行うことができます。

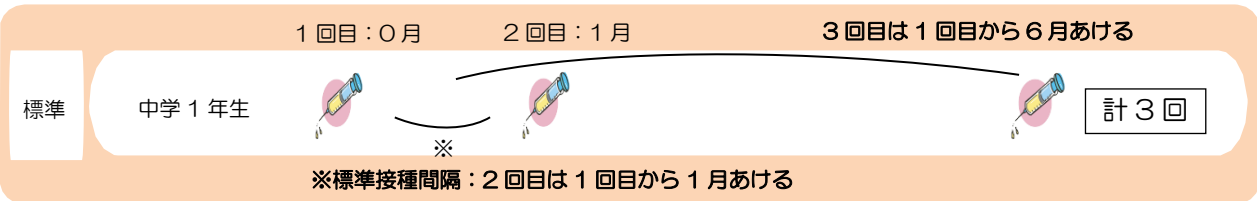
子宮頸がん予防ワクチンはサーバリックス、ガーダシル、シルガード9の3種類から選択できます。（令和5年4月1日からシルガード9が追加されました。）接種希望医療機関にて接種可能かどうか事前にご確認の上、予約してください。詳細は医療機関とご相談ください。

接種回数は、サーバリックス、ガーダシルについては3回です。3回とも同じワクチンで接種を終えることが望ましいとされていますが、医師との相談の上、交互接種（サーバリックスまたはガーダシルからシルガード9への変更）を行うことができます。

また、シルガード9は、1回目の接種開始年齢によって接種回数が異なります。1回目接種開始年齢が15歳以上の場合は3回、15歳未満の場合は2回となりますのでご注意ください。

サーバリックス（2価：16、18型）

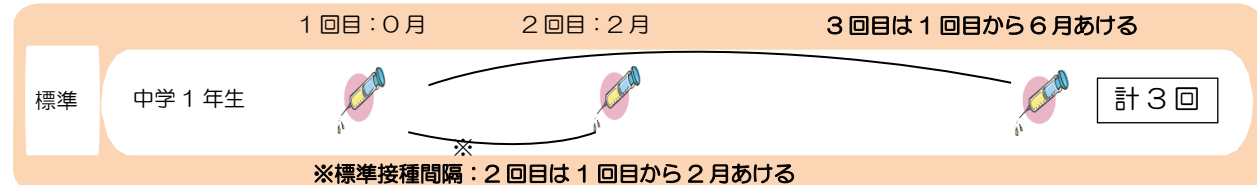
【標準スケジュール】 例）初回が4/1の場合、2回目が5/1～5/31、3回目は10/1～10/31



※やむをえない場合 ①0月 ②1月～ ③5月以上かつ2回目から2月半あける

ガーダシル（4価：6、11、16、18型）

【標準スケジュール】 例）初回が4/1の場合、2回目が6/1～、3回目は10/1～

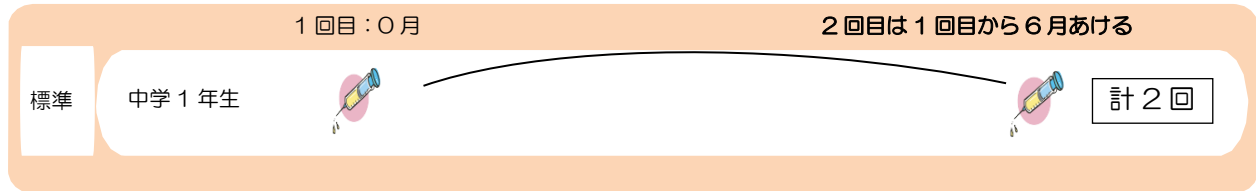


※やむをえない場合 ①0月 ②1月～ ③2回目の接種から3月以上あける

シルガード9 (9価：6、11、16、18、31、33、45、52、58型)

(1) 1回目の接種年齢が15歳未満(15歳の誕生日の前日まで)であった時→接種回数 2回

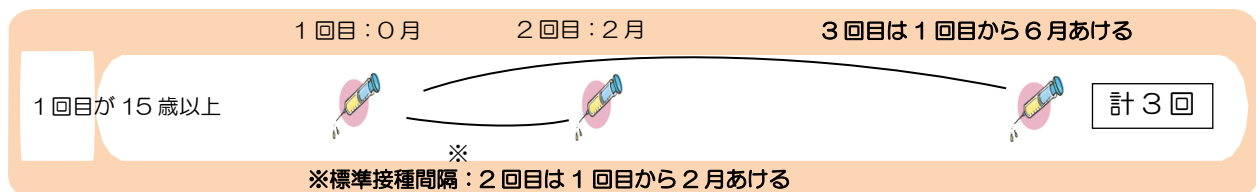
【標準スケジュール】 例) 初回が4/1の場合、2回目は10/1～



※やむをえない場合 ①0月 ②2回目の接種から5月以上あける

(2) 1回目の接種年齢が15歳以上(15歳の誕生日から)であった時→接種回数 3回

【標準スケジュール】 例) 初回が4/1の場合、2回目が6/1～、3回目は10/1～



※やむをえない場合 ①0月 ②1月～ ③2回目の接種から3月以上あける

副反応と注意点

接種を希望するワクチンに関する書類は必ずよく読み、その効果、用法、用量及び副反応について理解するとともに、子宮頸がんワクチンは他の予防接種と違い筋肉内接種のため、痛みがともなう場合がありますので、接種当日は必ず保護者の方が同伴し接種後のお子さまの様子を見てあげてください。また、接種後副反応がでる場合がありますので、接種後30分間は安静にし、過度な運動は避けるようにしてください。なお、接種当日の入浴は差し支えありませんが、接種部位をこすることはやめましょう。

※法で定められた期間内に接種されない場合は、自己負担となりますのでご注意ください。